JA共済

令和８年６月 11 日（No.08-05）

News Release

農作業事故の発生要因や事故傾向について分析

～最新の共済金支払データによる分析結果を公表～

ＪＡ共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 村山 美彦）は、農業者が安心して農業に従事できるよう、保障提供とともに農作業事故の未然防止に向けた活動を展開しています。

今般、その一環として、令和３年から令和６年までの共済金支払データ約 40,500 件を用いて、農作業事故の発生要因や事故傾向について分析を実施しましたので、お知らせいたします。

■ 背景・目的

農業における事故件数は、死亡事故が他の産業に比べて高水準で推移しているほか、死亡に至らない事故についても多数発生しています。

一方で、死亡に至らない傷害事故や物損事故については、詳細な統計データが十分に整備されておらず、事故全体の実態把握が困難な状況にあります。

このような背景を踏まえ、ＪＡ共済連が保有する共済金支払データを活用し、これまで見えづらかった傷害事故や物損事故も含めた分析を行い、農作業事故リスクの可視化を図りました。

なお、本分析は平成 30 年、令和４年に続く継続的な取組みです。

■ 分析結果（概要）

農作業事故は年間約９万件※1程度発生していると推計され、前回分析時の約７万件と比較すると増加傾向にあることが明らかとなりました。

また、農作業事故は、重大事故の背景に多数の軽微な事故が存在する構造にあり、農業機械（以下：農機）に起因する事故は重傷化・重大化しやすい傾向が確認されました。さらに、斜面や高所などの作業環境や高齢化の進展が事故の重傷化に影響していることも明らかとなりました。

事故の発生状況では、農用トラクタでの事故発生頻度が多く、農用運搬機での重傷度が高い傾向がみられるものの、過去の分析と比較すると、いずれも低減傾向にあることがみられました。一方で、傷害事故の予備軍ともいえる物損事故については、発生件数および損害額のいずれも増加傾向にあることがわかりました。

※１　農林水産省が公表する令和６年の死亡事故数（287 件）に対してハインリッヒの法則を準用し試算

なお、詳しい分析結果につきましては、次頁の別添１および、ＪＡ共済ホームページのニュースリリースより、『概要版』『詳細版』をご参照ください。

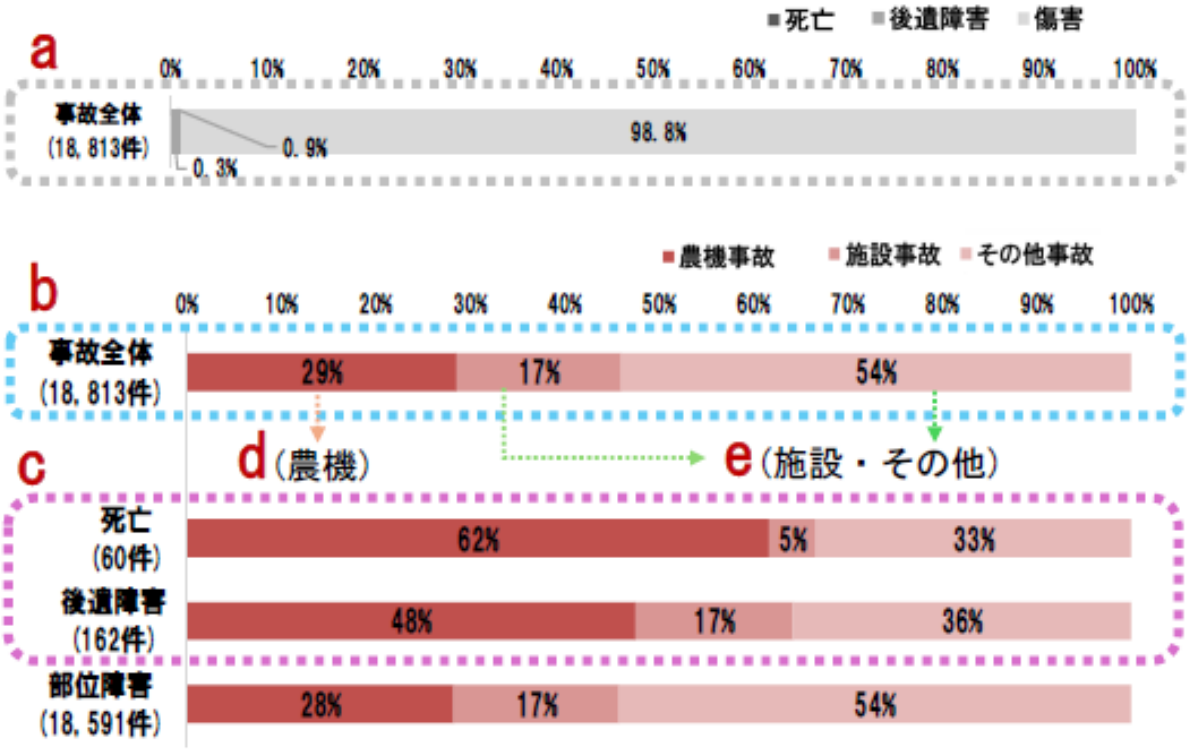
■ 分析結果の主な特徴

１．死亡以外の災害を含めた発生状況

農作業事故における死亡・後遺障害・傷害の比率は「１：３：３１０」であり、重大事故の背景に多数の軽微な事故が発生していることがわかります。また、重大事故では農機に関わる事故の割合が高く、施設内外を問わず、「墜落」の場合に重大事故につながりやすい傾向がみられました。

着眼点	まとめ	
a：傷害の程度別	死亡：後遺障害：傷害＝**1**：3：310	**死亡事故は極一部**
b：事故全体	農機：施設：その他＝5：3：**9**	**「その他事故」が多い**
c：重大事故	農機：施設：その他＝**7**：2：5	**「農機事故」が多い**
d：農機事故	**「乗用トラクタ」**は「発生頻度」の、**「農用運搬機」**は「重傷度」の観点から危険性が高い（図１）	
e：施設・その他事故	施設内外を問わず、**「墜落」**の場合に重大事故につながり易く、高所作業や急な斜面には注意が必要（図２、３）	

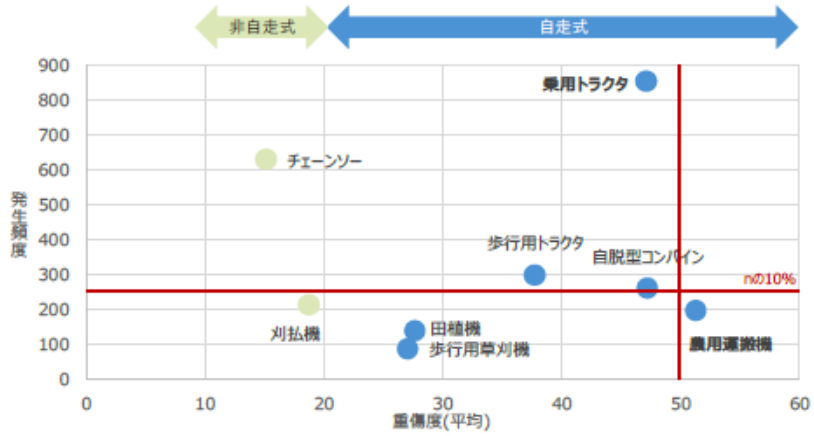
（注）「重傷度」はＪＡ共済連が独自に算出した指標です。



農機事故
（全　体）

d

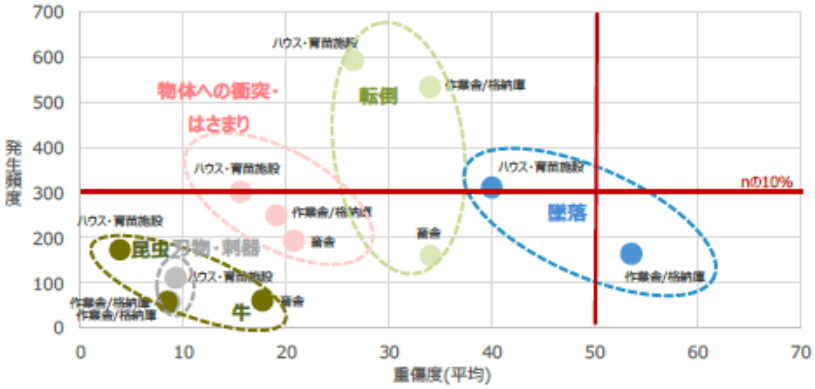
図１　発生頻度と重傷度（平均）【主要農機別】



施設事故
（全　体）

e

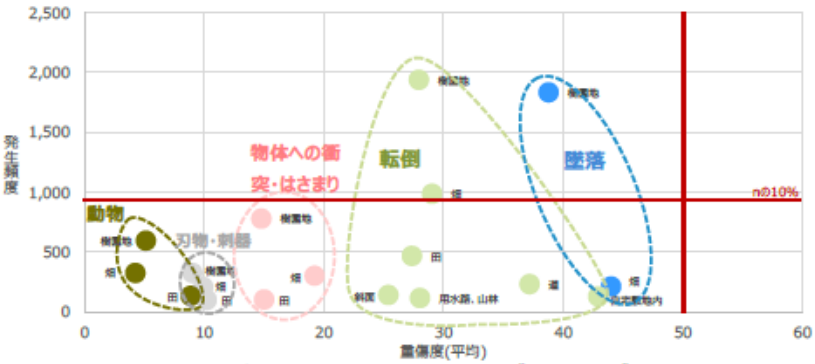
図２　発生頻度と重傷度（平均）【事故原因・発生場所別】



その他事故
（全　体）

e

図３　発生頻度と重傷度（平均）【事故原因・発生場所別】



（注）「樹園地」の頻度は、果樹農家の共済加入率が高いことが影響しています。

２．農作業の特性と事故の関係

農作業事故については、斜面や高所での作業、狭い施設での作業などの環境要因により、転倒や衝突による事故が発生しやすい状況にあることがわかりました。

また、農機や用具の使用に起因する事故が多く、これらは他の事故と比べて重傷化しやすい傾向が確認されました。さらに、高齢者ほど重傷度が高くなる傾向もみられました。

	農業の主な特性	データの検証	まとめ
①環境	斜面、高所作業が多い	**「転倒（同一平面）」、「衝突」**が事故全体の**半数**を占める（図４）	**事故を起こしやすい**
	狭く暗い施設、炎天下が多い	・**施設事故**は**約２割**を占める（図５） ・発生時期は**6～9月**で**４割**を占める（図６）	
②物	様々な機械、用具、家畜を扱う	**機械、用具、生物だけ**で**約６割**を占める（図７）	
		機械、用具の事故の**重傷度**は、他の事故よりも**高い**（図８）	**重大事故に繋がりやすい**
③人	高齢者が多い	**高齢なほど重傷度が高い**（図９）	
	ワンオペレーションが多い	**事故後すぐに発見されないケース**が散見される	

環境

図４　発生原因

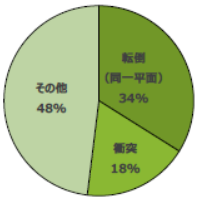


図５　発生場所

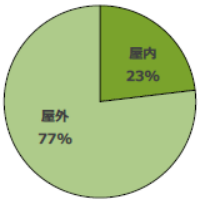
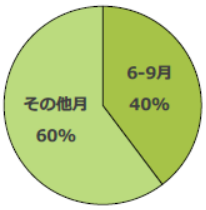


図６　発生時期



物

図７　発生件数（割合）

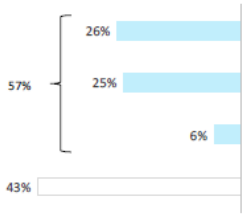
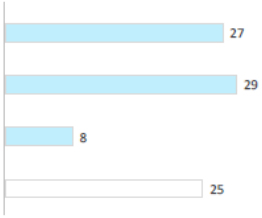
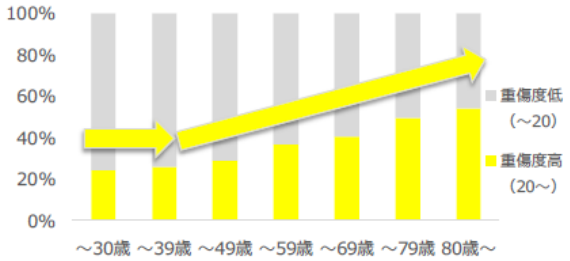


図８　重傷度（平均）



人

図９　年代別の重傷度の割合



３．主な農機・用具・生物の事故特性

農機・用具ごとの事故特性では、乗用トラクタにおける前進時の転落・横転や、歩行用トラクタにおける後進時の巻き込まれ・挟まれ等の事故が発生件数・重傷度ともに高い傾向が確認されました。また、脚立やはしご使用時における墜落など、日常的な作業においても重大事故につながるケースが確認されました。

事故特性のまとめ

- :「乗用型」使用時の「公道・圃場での転落・横転・衝突」
- :「乗用型」使用時の「乗降中の人の転倒」
- :「歩行型」使用時の「下敷き・巻きこまれ・構造物と機械に挟まれ」
- :「刈払機・はしご・脚立」使用時の「(不安定な場所からの) 転落・墜落」
- :「刃のある機具」使用時の「巻きこまれ・刃との接触」

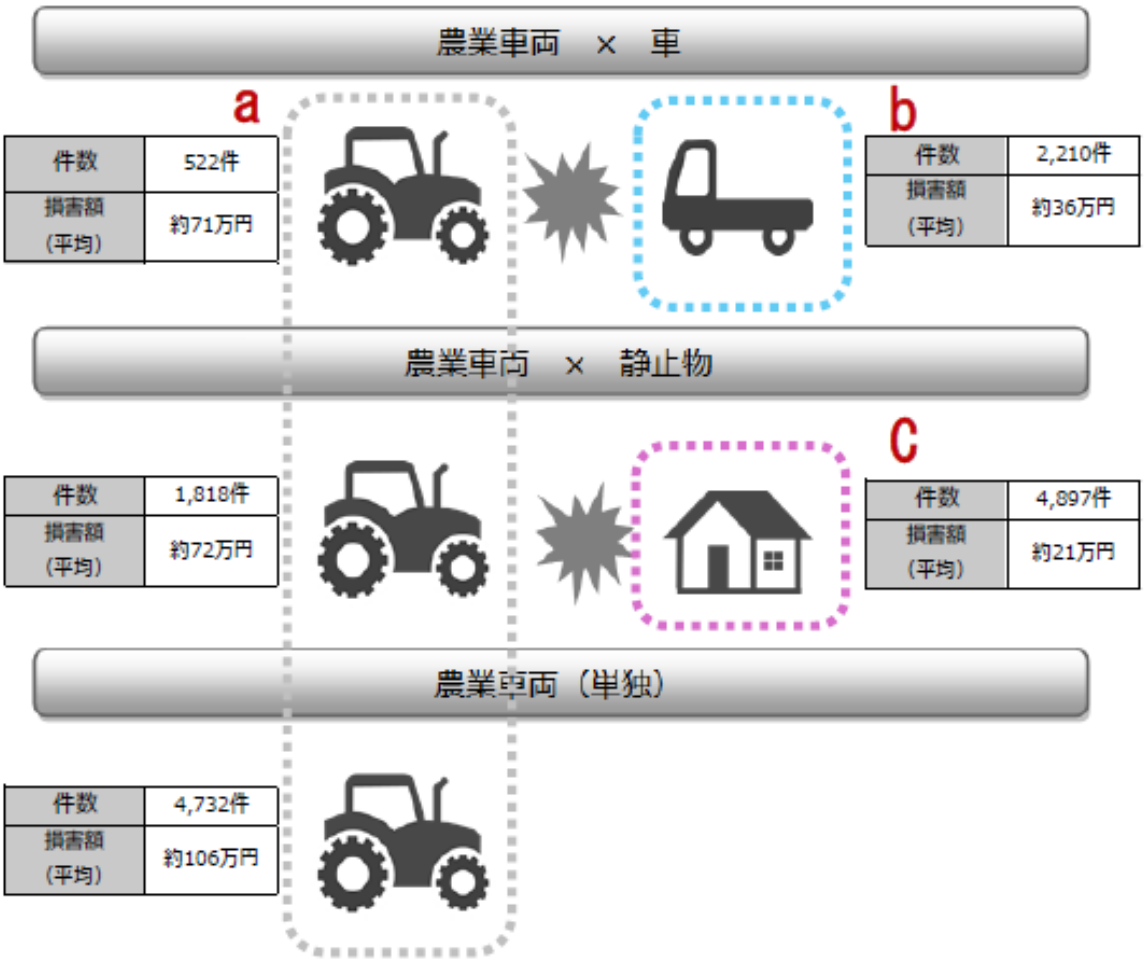
		発生頻度　多 **重傷度　高**	**発生頻度　多** 重傷度　低	発生頻度　少 **重傷度　高**
乗用型	乗用トラクタ	前進（圃場）－転落・横転	作業機連結－その他の接触	周辺作業－巻きこまれ
		－	乗降中－転倒のみ	直進（公私道）－転落・横転
			点検・手入れ－その他の接触	前進（圃場）－構造物に接触
	田植え機	－	乗降中－転倒（のみ）	直進（公私道）－転落・横転
			周辺作業中－その他接触	周辺作業中－刃部との接触
	自脱型コンバイン	－	周辺作業中－巻きこまれ	直進（公私道）－転落・横転
			－	周辺作業中－下敷き
				前進（圃場）－転落・横転
兼用型	歩行用トラクタ	後進（圃場）-構造物と機械に挟まれ	前進（圃場）－その他の接触	前進（圃場）－転落・横転
		後進（圃場）－巻きこまれ	前進・後進（圃場）－転倒のみ	－
	農用運搬機	後進（圃場）-構造物と機械に挟まれ	－	後進（圃場）－下敷き
		－		直進以外（公私道）－下敷き
その他	歩行用草刈機	－	前進（圃場）－飛散物跳ね上げ	積み下ろし－下敷き
			－	前進（圃場）－転落・横転
	刈払機	－	前進（圃場）－巻きこまれ	－
			前進（圃場）－転倒のみ	
	チェーンソー	－	立木切断－巻きこまれ	－
			剪定－巻きこまれ	
用具	脚立	樹園地－墜落	－	作業舎/格納庫－墜落
	はしご	樹園地－墜落	－	作業舎/格納庫－墜落
		樹園地－踏み外し（昇降不明）		ハウス/育苗施設－墜落
	鎌	－	畑－刃部との接触	－
			田－刃部との接触	
	はさみ	－	樹園地－刃部との接触	－
生き物	牛	－	畜舎－その他のぶつかり	－
			畜舎－踏まれ	
	蜂	－	樹園地－刺され（業務外）	－
			畑－刺され（業務外）	

（注）「発生状況（～するとき）」と「結果（～になった）」の組み合わせからなる「事故の型」について、発生頻度が事故データの 10%超（「事故の型」が多様な乗用・歩行用トラクタでは５%超）の場合に「発生頻度　多」と判定し、重傷度（平均）が 50 超（重傷度が比較的低い用具・生物では 30 超）の場合に「重傷度　高」と判定しています。

４．物損事故の発生状況

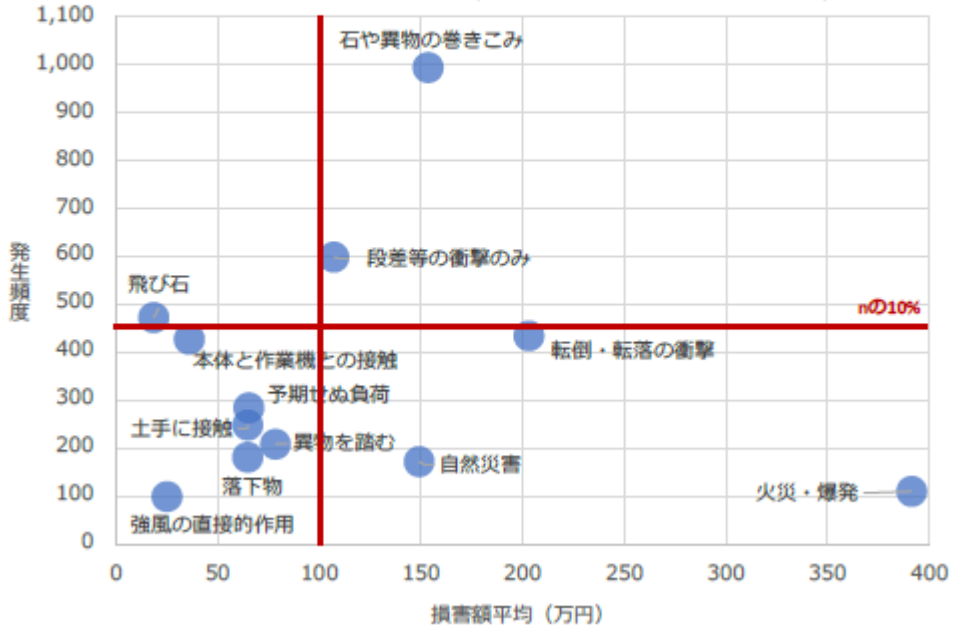
自車両における物損事故では、農業車両による単独事故が多く、特に転倒・転落は発生頻度および損害額の両面で高い傾向が確認されました。また、静止物における物損事故では、損害額は低いものの発生件数が多いことが確認されました。

着眼点	まとめ
a：自車両	・件数及び損害額は、「農業車両（単独）」の形態で最も高い ・特に「転倒・転落」については「発生頻度」及び「損害額」のいずれの観点からも危険性が大きい（図１０）
b：相手方車両	・損害額は、それほど高くはないが、実際にはこのほか相手方の人身傷害にかかる損害賠償を過失割合に応じて請求されることが一般的
c：静止物	・損害額は、低い ・特に「壁」及び「給水・排水設備」に衝突することが多い（図１１）



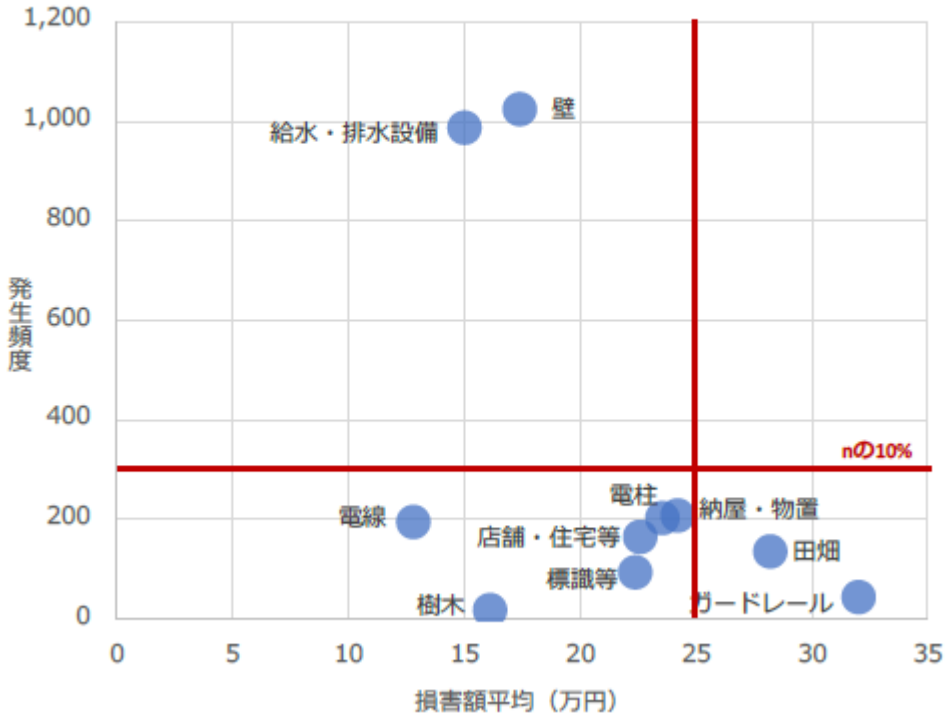
農業車両（単独）の詳細

図 10　発生頻度と損害額（平均）【事故結果別】



静止物の詳細

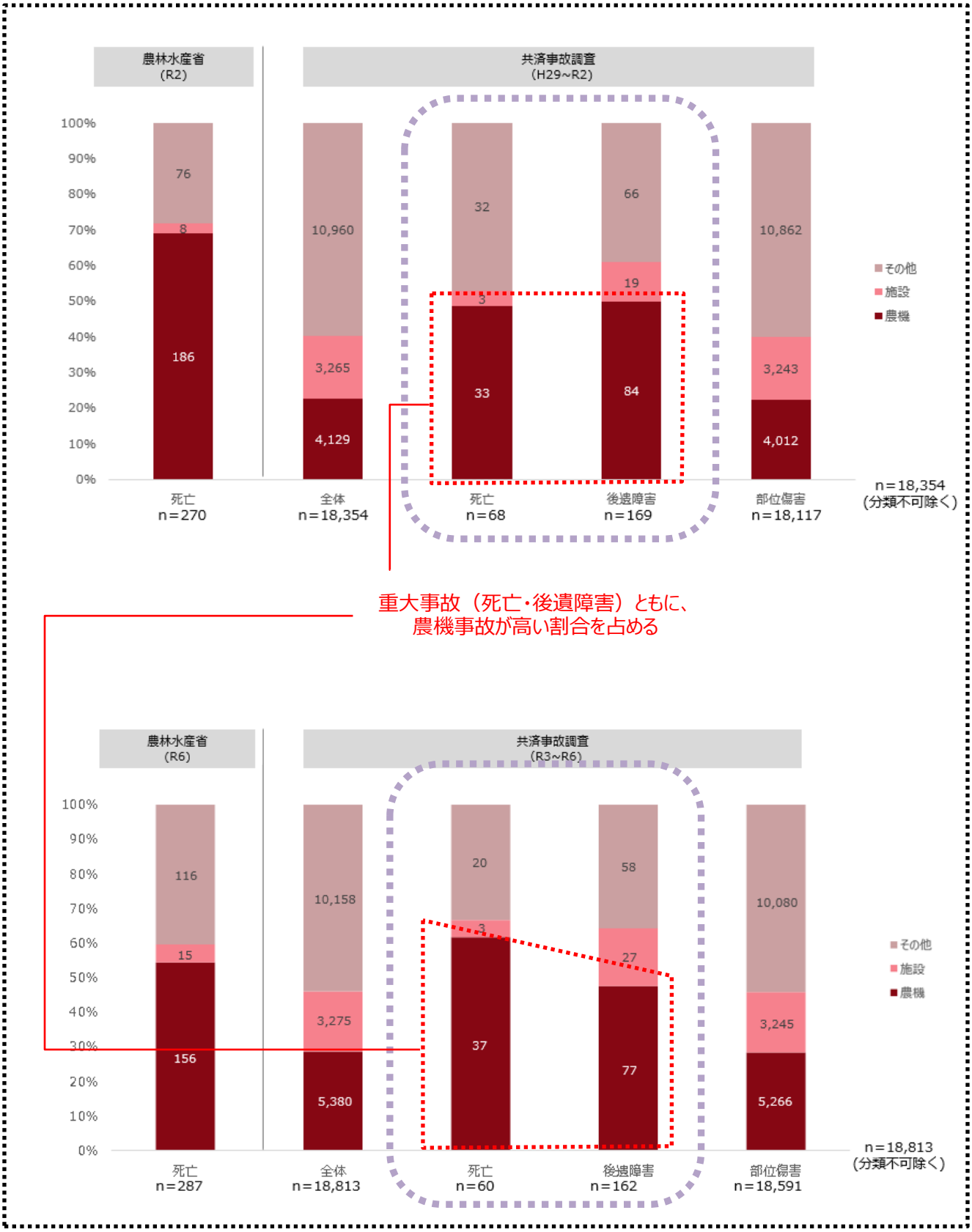
図 11　発生頻度と損害額（平均）【衝突対象別】



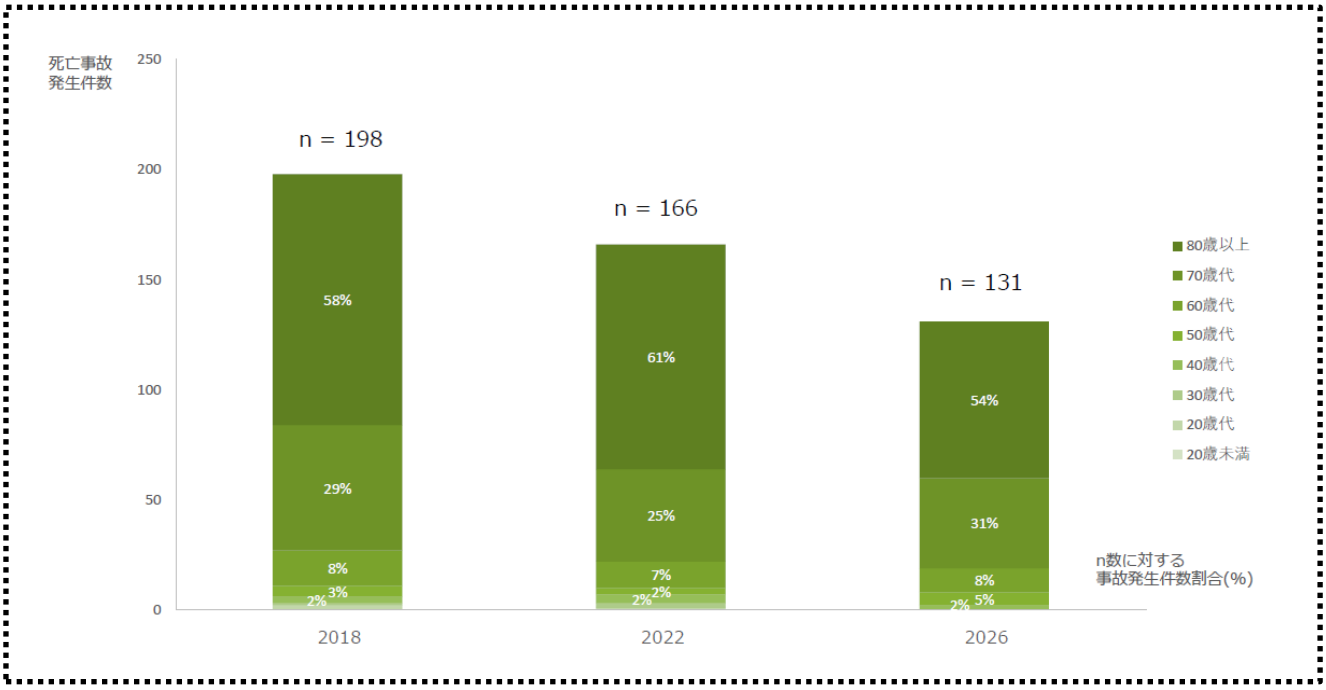
■ 過去の分析結果との比較

過去の分析と比較すると、農機事故が重大化しやすい傾向や、高齢層で死亡割合が高い傾向が引き続き確認されました。一方、事故件数で比較すると、農機事故は低減傾向がみられる一方、物損事故については、増加傾向が確認されました。

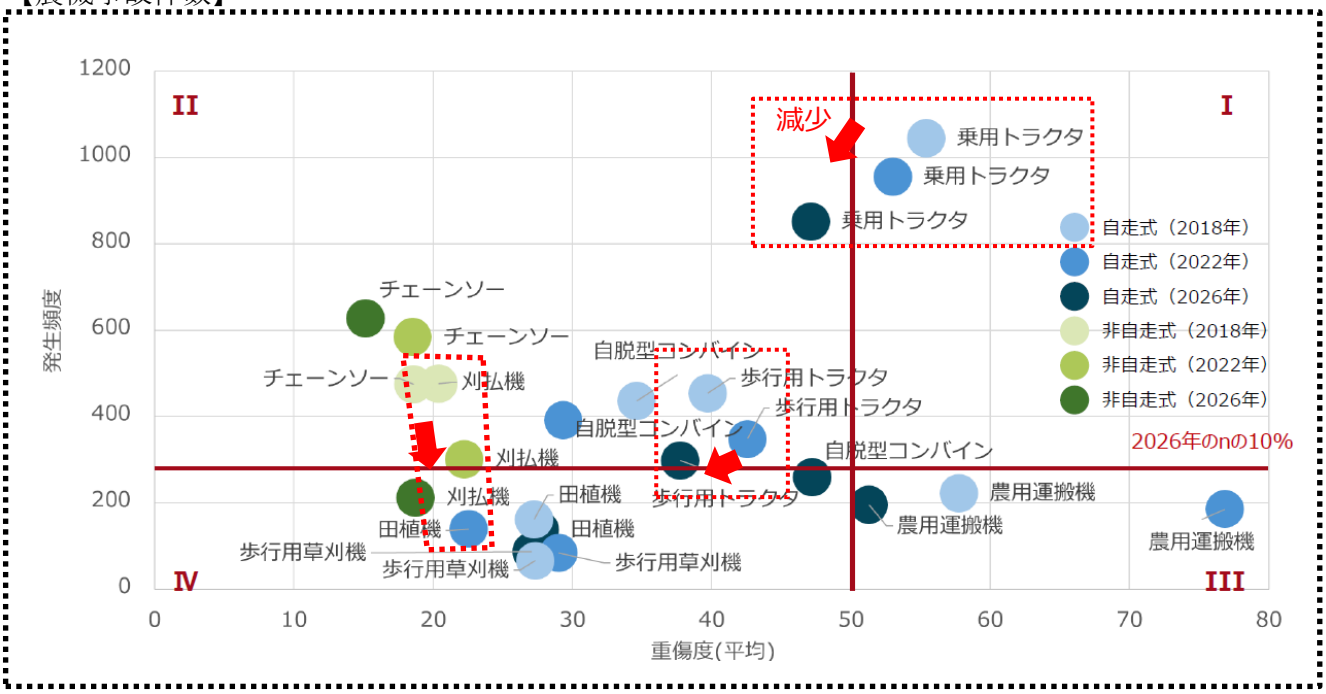
【傷害程度別の割合】



【年代別死亡件数】



【農機事故件数】



【物損事故件数】

＜自車両の物損被害の詳細＞

２０２２年

項番	事故形態	件数	損害額（平均）(万円)	損害最高額(万円)
①	農業車両×車	405	57万円	2,132万円
③	農業車両×静止物	1,332	48万円	642万円
⑤	農業車両(単独)	3,128	83万円	2,520万円

増加

２０２６年

項番	事故形態	件数	損害額（平均）(万円)	損害最高額(万円)
①	農業車両×車	522	71万円	1,519万円
③	農業車両×静止物	1,818	72万円	1,114万円
⑤	農業車両(単独)	4,732	106万円	4,315万円

＜相手方の物損被害の詳細＞

２０２２年

項番	事故形態	件数	損害額（平均）(万円)	損害最高額(万円)
②	農業車両×車	2,230	30万円	833万円
④	農業車両×静止物	3,736	15万円	347万円

増加

２０２６年

項番	事故形態	件数	損害額（平均）(万円)	損害最高額(万円)
②	農業車両×車	2,210	36万円	1,225万円
④	農業車両×静止物	4,897	21万円	1,722万円